

(様式第 1 号)

平成 2 2 年度第 2 回 芦屋市立図書館協議会 会議録

日 時	平成 2 3 年 3 月 8 日 (火) 13 : 25 ~ 14 : 20
場 所	芦屋市立図書館本館 2 階集会室
出 席 者	委員長代理 中尾 滋男 委 員 梓 加依 委 員 大竹 恵子 委 員 河村 照子 委 員 北里佐和子 委 員 渡辺 宏子 事 務 局 高田館長, 早戸主査, 丸尾主査, 渡辺 (記録)
欠 席 者	委 員 長 芝 勝徳 委 員 水谷 孝子
会議の公開	■ 公 開
傍 聴 者 数	0 人

1 会議次第

1 図書館運営について (報告)

①平成 2 3 年度予算 (案)

②平成 2 2 年度業務報告

2 その他

2 提出資料

資料 1 平成 2 3 年度一般会計予算書 (案)

3 審議経過

(開会)

中尾委員長代理) 図書館協議会を開会します。まず始めに, この会議の公開・非公開についてお諮りいたします。この会議は, 芦屋市情報公開条例第 19 条に基づき, この会議は公開としますがよろしいでしょうか。また, 会議録を作成し公開すること, さらに, 芦屋市ホームページに掲載する件についてよろしいでしょうか。

(全員異議なし)

中尾委員長代理) では, 会議の記録を公開することに決しました。それでは, 1. 図書館運営について議題といたします。

(1) 平成 2 3 年度予算 (案), 事務局から説明をお願いします。

事務局高田) それでは, 平成 2 3 年度図書館の予算案についてご説明いたします。

資料をご覧ください。この資料は議会にも提出いたしました一般会計予算説明書からの抜粋です。図書館の予算は, 芦屋市の予算のうち, 一般会計に含まれています。予算は歳入と歳出に分かれており, 歳入は, 市に, 図書館にお金が入ってくる予定のものであり, 歳出は, 図書館が物品を購入したり, 業務を委託した場合, お金を支払うものであります。歳入については, 款 2 1 使用料及び手数料と款 2 8 諸収入の記載のある部分をご覧ください。

歳入の款 2 1, 項 0 1 の使用料の目 1 0 教育使用料の上から 3 番目, 図書館駐車場使用料ですが, 月額 2 1 万円を予定し, 年間 2 5 2 万円で

予算計上しています。その少し下、図書館目的外使用料ですが、図書館内にある自動販売機や、本館、大原分室でカウンター業務を委託、また、本館清掃業務を委託していますが、その際、図書館の施設を使用しますので、その分を自動販売機の設置者や業務委託の受託者から施設使用料を徴収する仕組みになっており、この分を市の歳入として計上しているものです。

次のページの下の方、図書整備支援事業交付金ですが、財団法人兵庫県市町村振興協会からの平成21年度から23年度までの3か年にわたって交付金を頂ける予定ですので、この分を市の歳入として計上しています。

次のページは、図書館から支払う予定の歳出予算です。

01報酬から12役務費まではほぼ例年どおりです。図書館のランニングコストと言ってもよいかもしれません。13委託料は新聞記事データベース事業が終了しましたので減額、15工事費も22年度1,790万円程度あったところ、23年度は440万円となりました。予算減額の要素はこの2点が大きく、予算を新たに獲得しようとした点は、公用車の購入と図書費の増額が上げられます。公用車では80万円を計上し、図書費は120万円程度の増額を行い、平成23年度予算の図書費は説明欄2,260万円となりました。また、説明欄最下段の188,7千円も図書費として支出予定ですので、23年度の図書費は実質2,449万円を確保する見込みです。説明は以上です。

中尾委員長代理) ご質疑・ご意見ございませんか。

特に無いようですので(2)業務報告をお願いします。

事務局高田) この件は、前回の図書館協議会でも、少し報告させていただきましたので、22年度の後半を中心に簡単にさせていただきます。前回の図書館協議会以降で一番大きなものは、工事関係でございます。予定の図書館の外壁の補修工事を実施し、無事終わりました。工事期間中には、事前の周知の効果もあり、大きな苦情はありませんでした。また、別途、非常照明・誘導灯のバッテリー交換なども行い、計画どおりに進んでおります。また、車椅子の方が使いやすいように扉の改修も昨日から実施しているところです。絵本の読み聞かせの部屋について、夏場暑くなりエアコンがあまり効かないので、建築課と相談して、少しでも涼しくなるように熱線遮断のフィルムを貼る工事を実施しました。

前回少し報告させていただいた予約件数ですが、平成22年4月から11月末現在の予約処理件数が、総数で78,342件で、この内、ネット予約が53,187件で、67.89パーセントに達しています。最終的には平成22年度の予約壮健数は100,000~110,000件くらいになりそうです。

また、今年度も図書の除籍を進めており、平成22年度末で10,000件から11,000件程度になる見込みです。これは、現在、開架もそうですが、書庫も一杯の状態、かなり意識的に除籍を進めないと、業務に支障が出る見込みです。今後とも意識的に計画的に進めていく必要があると考えています。説明は以上です。

中尾委員長代理) ご質疑・ご意見ございませんか。まずは、工事関係で何かあり

ますか。

中尾委員) 苦情があまりなくよかったですね。

事務局高田) 苦情がなかったこともそうですが、けが人が出なくてよかったなと思っています。東出入口を閉鎖致しました際に、利用者がウロウロ迷われていることもありましたが、誘導も含めうまく行えたかなと思っています。

中尾委員長代理) 次年度は大きい工事はないですね

事務局高田) 計画どおりの細かな工事、塗装工事など実施する。平成24年度にはエアコンの改修工事を実施します。4年計画で予定どおり上手く進んでいると考えています。

北里委員) 24年度にエアコンの工事ということで、おはなしの部屋がなぜだかわからないのですがすごく寒い。部屋を締め切るので、ドアの下の隙間から音がする。座る位置によってもものすごく寒い。部屋を出ると暖かい。空調のせいかな原因がわからないのですが、寒さがひどくなっているような気がします。

事務局高田) おはなしの部屋については、風きり音がしているので、現状をよく把握して改修できたらと思います。エアコンの改修については、主に熱源を変える予定ですので、そこまでは計画していない。お声がありましたので、対応を考えさせていただきたいと思います。

中尾委員) 今のような意見は市民の方から出てきていますか。

事務局高田) 施設面での苦情はあまりありませんが、椅子を増やして欲しいというのはあります。また、夏場、エアコンが効きすぎているというお声はあります。28度に設定しているのですが、カウンターは暑く、開架室の奥は寒くなるといった具合に温度調整が難しいところです。

中尾委員長代理) 直せるところは、是非、直していただきたい

事務局高田) はい。何か良い方法を考えていきたい。

中尾委員長代理) 予約関係についてどうですか。

中尾委員) 予約件数那他市に比べても高い。前回の会議でも予約の対応が大変だと話がありました。

事務局高田) 図書館界の統計が掲載されている『図書館年鑑』のうち最新ものを見ますと、予約の件数では、10万人以下の都市の区分で、1番目が東京都の稲城市で164千件。2番目が芦屋市で当時のデータですと74千件。3番目が埼玉県の東松山市61千件で、全国平均が10万人以下の人口の市で、22千件となっています。

貸出冊数の統計では、この当時のデータで、芦屋市は全国8番目で73万冊。1番目は宮城県笠岡市の126万冊。全国平均が47万冊です。

中尾委員長代理) 大きなトラブルはないのでしょうか

事務局高田) 件数が多いので稀ですが、利用者が予約資料を取りに来た際に、本が所定の位置になく、探し出すのに時間が掛かったりして利用者にご迷惑をお掛けすることが稀ですがあります。また、在架予約をしているので、その本を職員が書架に探しに行くと所定の位置になく、探し出せないことも増えている。それも含め蔵書点検をきちんとしないといけないと思っている。

梓委員) 川西市の図書館は駅前にあるので、予約よりも行って借りてしまうとい

うこともあるようです。芦屋市が全国的に多いのはなぜかなと思う。
事務局高田) 分室があるため、予約が多いのかなと思っている。分室の規模は、2万～2.3万冊です。分室に行っても、資料の絶対量が少なく借りたい本が無いのかもしれませんが。また、本館で必要な本が分室に行っている場合もある。このため、特に分室に行った際に読みたい本があるようにするため、予約制度を利用されているのかなと思う。インターネットで事前に予約しておけば、読みたいタイトルの本が事前に用意できている。このため、予約の件数が多くなる傾向があるのではないかと考えている。困っていることは特に分室で、予約の本を置いておく棚、いわゆる取置のためのスペースが少ない。大きい図書館に行けば自分で探そうかなと思うが、分室は置いている本が少ないので、予約を利用し、読みたい本を分室で借りられるように利用者が行動されているように考えています。予約制度は、特に規模の小さな分室を持つ図書館にとってメリットがありますが、その制度を支えるマンパワーが必要な仕組みと思っています。

大竹委員) 芦屋市民以外の方も予約ができるのですか。

事務局高田) 西宮市、尼崎市など阪神間図書館で相互利用の協定を結んでいる。これらの地域では他市と本市の利用者は、貸出、予約での区別はしていない。神戸の市民については、館外貸出は行っていない。

梓委員) 阪神間の7市1町広域サービスはかなり前からやっているサービスですね。

事務局高田) 神戸の深江あたりの市民から、芦屋の図書館で本を借りたいと声があがっているようです。昨年11月頃に神戸市立中央図書館の館長が来館され、そのあたりの情報交換をしました。神戸市の行政内部として苦慮しているようです。こちらの対応としては、やはり神戸市民への館外貸出は、一旦、可能とするとかなりの需要が見込まれ、対応できないと回答いたしました。意見交換の中では、神戸市民で芦屋の図書館で本を借りたいと言っている人の中には、本市の図書館には中庭があり、ゆっくり本が読めるとの意見もあるとのこと。神戸の方でも館内利用は現状でも可能です。また、館内利用票の住所の記載内容から、東灘区の方が本市の図書館を利用していることは確認しています。本だけ借りたいと話がありましたが、現在の事務処理が予約と連動しているため、切り離しが難しい。規則改正も必要である。今後とも情報交換をしていこうとの話で終わりましたが、実務的には無理と考えている。

中尾委員) 無理して広げる必要はない。限られた予算と人数でやっているのだから、その対応でよいと思う。

梓委員) たくさん職員を置いて、たくさん本が買える状況なら良いのですが、東灘の人口を考えても無理ではないか。

事務局高田) 現在、西宮市立中央図書館が蔵書点検中で、この土日は普段より利用が多かったと体感しています。今日も利用者が多いような気がします。

中尾委員長代理) 最後の除籍についてどうぞ。

中尾委員) 蔵書冊数、37万冊は10万人以下の規模の市としては多いのでしょうか。

事務局高田) 10万人以下の市で蔵書が多い市は、福井県坂井市、滋賀県甲賀市

が56万冊。芦屋市は15位で、日光市と同じくらいです。平均では、28万冊程度です。

中尾委員) 除籍をしないと新刊本が入らないのか。

事務局高田) 物理的に置くスペースがない。

中尾委員) 37万冊が限度ですか。

事務局高田) 本市の図書館は、35万冊での想定である。もう少し入るかもしれないが開架室に横積みをしているところもある。書庫も本が置ければ良いという訳にはいかない。きちんと分類ごとに資料を配架するには、一定の余裕が必要です。年間、約14千冊を受入れしている。仮に除籍予定の11千冊を達成したとしても3千冊は残っていく。本が入ってくる数と除籍の数を同じくらいにするためにはもっと頑張らないといけない。

中尾委員長代理) 他に質問はありますでしょうか。

渡辺委員) 廃棄の本を選ぶのも、古いからとかではないでしょうかから大変でしょう。

事務局丸尾) 古いだけでは廃棄にならない。図書館内に選書会がありまして、職員4名で構成されています。本の購入、除籍もこのメンバーが中心となっています。除籍の選書も購入するのと同じくらい大切な作業で、古くても置いておかないといけないものもありますし、児童書も絶版になったり、手に入らないものもありますので、除籍対象として選んだ後も本当に除籍して大丈夫なのかと確認しています。

事務局高田) 除籍は図書館員にとって精神的にも嫌な仕事です。しかし、業務としてやらないといけないので計画的に進めるよう意識的に指示しています。数値目標を定めることについては悩んだのですが、定めないと進まないところです。計画的、かつ、必ず複数名で除籍する資料を選んでいきます。私からは、除籍基準に沿った形で、特に、将来使うかどうかよく考えて除籍するようという指示は出しております。

中尾委員長代理) 2のその他ありますか。

渡辺委員) 市民委員については、どうなっているのでしょうか。

事務局高田) 図書館協議会の市民委員の公募ですが、7名の応募があり、このうち、1名を市民委員に就任していただこうと考えています。選考につきましては、社会教育部内に選考委員会を設け、選考致しました。

中尾委員長代理) 他に何かありますか

梓委員) 本日の議題とは関係ないのですが、1時間前に着いてゆっくり図書館の中を見ていました。子供の図書の本の表示について、少し気になりました。「38みんわ」と表示されているところが、中身を見ると民話だけではない。昔の食事、伝統的なお話、民俗学的なお話があるので、むしろ昔の話や昔話のほう幅広くふさわしいのではないかと思います。民話と言うと非常に狭く捉えられてしまいます。提案です。

事務局高田) ご指摘ありがとうございます。実態にあっていない部分、わかりにくいところ、表示がきれいでないところがありますので、改善してまいります。

梓委員) 良いなと思った点は、子供達が探しやすい言葉で表記されている。親切でいいなと見ていた中で、民話の所が気になりました。民話と言うのは、昔話の中で神話、民話、伝説と分かれる小さな1つです。大きく昔

話とか昔の話と表記すれば、民族学的なものも網羅できるかなと思います。

大竹委員) 民話は民話で特徴のあるものなので、それを読みたいと思う人も昔話のなかで民話を分けているとわかりやすいかなと思います。

梓委員) エントランスホールの掲示板に新聞の新刊図書の紹介の記事が張り出されており、複数新聞を読むわけではないのでいつも楽しく見ております。話題の本、お勧めの本などこのような情報の提供は良いと思います。解説など楽しみに読んでいます。

中尾委員長代理) 他ありますか。無いようですので、これをもって図書館協議会を閉会します。おつかれさまでした。

(閉会)